



大阪新聞錦画 三号

東京高井戸村近浦明治八年四月二十日ある家の七歳ある女の子が去年生来の  
 赤児を争して夕方ひとり帰り母の赤児を尋ねふかまふもいなり泣けり川へ  
 入めりといふ通り泣きつゝあゝ川へ入るゝて戻つて聞より母氣を狂亂いそぎ川に  
 居て見ると最早流れて知とぬ内へ入るゝ女の子を捕へんとせんせり取らんと  
 悪うかつて此子も死んで大変とあるじを母の思ふやう丈夫の苗主申訳ありと又此母  
 身を投げて因果の巡る一日中三人連れの出の旅三途の川の浅き事ありと  
 高井戸のあふれといふと愛善の薄きことや  
 子のあふれといふと  
 よくおぼしと  
 讀み  
 半八号  
 歎き

文花堂誌

本安板  
 早稲田

文花堂誌

大阪新聞錦画3号 文庫10-8066-3

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

